★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

小松ＳＳＨだより

第6号　H18.10.27
編集:SSH推進委員会
発行責任者:栖川成人

石川県立小松高等学校

★★★★★★　科学的探究力、人間力、自己表現力、国際感覚の育成をめざす　★★★★★★

スーパーときめきサイエンス物理　特別講義

9月27日（金）に「中谷宇吉郎と雪の結晶」と題して、雪の科学館館長　神田健三先生にお越しいただき特別講演を開催しました。

前半は、本校の大先輩でいらっしゃる中谷先生の生い立ちから雪の研究に至る話などをしていただき、中谷先生の優秀で多才な能力に続かんと密かに志した生徒も多かったものと思います。

後半は、実験を中心として行い、ダイヤモンドダストを作成したり、シャボン膜を凍らせてその表面に雪の結晶が発達する様子を観察したり、氷に強い光を当て氷の内部から融解させ雪の結晶の形をした気泡を作成したりしました。生徒は興味津々と楽しく、自然の不思議の探究が出来たと思います。

《生徒の感想》

- 中谷先生が雪の研究だけでなくたくさんの分野で活動していたことを知り改めて感動した。また、時代に流されることなく身近な雪の結晶を突きつめていくその姿勢を見習わなければならないと思った。
- 身近なものにもすばらしい科学の世界があることや探究していくことの大切さを知ることができ本当に良い機会となった。
- 氷に光りを当てると、氷は表面だけではなく内部からも溶け、その部分が雪の結晶の形をしていた。家でもやってみたい。

青少年のための科学の祭典2006 金沢大会

日時　：　平成 18 年 10 月 7 日（土）～8 日（日）
場所　：　金沢駅前地下 「もてなしドーム」

小松高校は10月８日（日）に参加し、「コップの水は何故落ちない」と「きれいなスライムを作ろう」の2つのブースを担当した。理化部、物理・天文同好会の生徒、合わせて10人が小学生や幼児を相手に指導した。会場を訪れた人は約5000人、私たちのブースで実験した人は1000人あまりであった。

《生徒の感想》

- 日曜日の「青少年科学の祭典」に参加して、やはり、スライム作りは多くのブースの中でも、一際人が集まっていたと思います。説明している途中に新たに入ってきたりして。説明を繰り返すうちにのどが痛くなり大変でした。このイベントで、子供達の科学への興味が高いと感じました。このようなイベントは是非、続けるべきです。
- 今回の行事に参加して、とにかく人が多いという印象をまず受けたが、それ以上に、他校がさまざまな研究を色々と工夫を凝らして行っているのだということを知って、自分達もがんばらなければならないと感じた。
- やはり、幼い頃からこういった実験は科学に興味をもたせるという点では有効だろう。ただ、どういう実験で興味をもたせるかが問題だ。子供にはある種のインパクトのある実験が有効だと思う。まあ、子供に見せるなら、空き缶つぶしが一番分かりやすいかもしれない。

創立記念講演会「ゾウの時間・ネズミの時間・私の時間」

10月６日、小松市公会堂にて創立記念講演会が行われました。東京工業大学教授　本川達雄氏を講師に迎え、『ゾウの時間・ネズミの時間・私の時間』という演題で全校生徒・職員・保護者を対象に、自作の歌を交えて約1時間半お話しされました。

普段の授業では聴くことのできない「生物と時間の関係」について、高校生にも分かるように丁寧に教えていただきました。「生き物ごとに流れる時間は異なるが、その命の重さは等しい」という先生の理論に、生徒たちは深い感銘を受けている様子でした。

また、進路を選択する際、「自分の好きなことだけで選ぶのは間違いであり、嫌なこともしなくてはいけないのが大人である」という言葉は、生徒たちの今後に大きな示唆を与えただけでなく、教職員にも大切なことを気づかせてくれました。

本川先生の話を聞いて、生徒たちは命に対して新たな視点を見出し、自己の進路に大きな展望をもち、これからの高校生活をさらに有意義なものにするために頑張ってくれることでしょう。

《生徒の感想》

- 生物は子孫を残すことでその生物の永遠を保っているという考えを聞いた時、自分は人間という存在を永遠にするための一つのパーツにすぎないが、それを決して怠ってはいけないと思いました。そのことが、生物は存在することが目標だということを意味しているように思いました。そういう意味では、生物学はどこか哲学と似ている気がしました。（１年男子）
- 本日の講演を聞いて時間のとらえ方みたいなものが、西洋人と東洋人では違うということを知った。またエネルギー消費量が多いと時間が速く感じることも知った。そう考えてみると自分にも似たような経験がある。授業を何もしないでただ聞いているだけでは時間の経過がとても遅く、逆に数学のように手を動かして問題を解いたり、体育のように体を動かすと、時間はすぐに経過している。だから、授業が早く終わってほしいと思ったら、より考え、より手を動かすことが休み時間への近道だと思う。（２年男子）
- 時間は回るものとして見ることができる日本人の感覚は大切にするべきだと思いました。同じ時間でも見方を変えるだけで全く別物になるのならどんなことでも物は視点によって価値が決まるものだと思うので、様々な方向から一つのことを見られる観察力を養いたいです。そして日本人しか立つことのできない視点から時間を見つめ、良い時間を過ごしたいと思います。（３年女子）

〈熱心に質問をする生徒〉→